狂気の十六の協約　第九巻

ヴァーミルナの物語

ダリアス・シャノは、気がつけば全力で走っていた。

一体何から逃げているのか、あるいはどこに向かっているのか自分でも分かっていなかったが、構わなかった。欲望が心を支配していた。逃亡すること以外に、この世には何もなかった。身を置くことができる場所、あるいは目標地点として使える場所を求めて辺りを見回してみたが、無駄だった。見渡す限りどこまでも、これまで駆け抜けてきたのと同じ平凡な草原が続いていた。「とにかく走り続けよう」と彼は思った。「できる限り速く走らなければ」。彼はひたすら走り続けた。視界にも心にも、何の目当てもないまま…

静かに寝床に横たわるダリアス・シャノのそばに立って見下ろすのは、彼の女主人である夢の織り手ヴァーミルナと、マッドゴッドのシェオゴラスだった。ヴァーミルナは弟子である彼を誇らしげに見下ろし、自分の小さな宝石について自慢げな様子だった。

「この者には素晴らしい可能性がある！　私が夢の刺激を通じて文才を育んで結実させたおかげで、今や彼は新しい歌人および詩人として喝采を浴びている！　きっと、私が飽き飽きしないうちに、大いなる支持を獲得するでしょうね」。シェオゴラスもまた、若きブレトンの芸術家をじっと見つめ、彼が人間たちの間で実に有名であることを見て取った。

「ふうむ」シェオゴラスが考え込み、「お前が作ったこの人間を憎む者は何人いる？　その憎しみは、人間たちが愛ではなく偉大さを支持するが故の物だ。これを完成させられるのは確かなのか？」

ヴァーミルナが少し顔を曇らせた。「そうね。人間たちは本当に愚かでつまらない行動に出ることが良くあるし、最も勇敢な者たちの多くが嫌悪されていることも事実だわ。でも心配しないで。この者にはいろんな形での偉大さを達成させ、他の者たちには憎しみを手に入れさせる力が私にはあるから」

「夢の織り手よ、その力を持つのが誰であるかを示せたら、愉快だと思わないか？　この人間に対する愚かでごう慢な憎しみを10年間かき立ててくれたら、私も同じようにしよう。そうすれば、いかなるデイドラからの助力や邪魔立てにも頼らずに、誰の才能が最も効果的なのか、分かるという物だ」

これを聞いて、彼女は自信ありげな喜びの表情を浮かべた。「マッドゴッドの力は確かに強大だけど、この任務は私のスキルに向いているわ。人間たちは憤怒に強い嫌悪を感じるけど、憎むほどだと思うことはまずない。私はこの人間の潜在意識からもっと微妙な恐怖を引き出すことができるし、そのことをあなたに示せるのを楽しみにしてるわ」

そうして、人生の19年目にダリアス・シャノが体験していた夢は、変化し始めた。彼にとって恐怖は常に夜の一部であったのだが、今やそこには別の何かがあった。暗闇が彼の眠りに忍び込むようになり、その暗闇があらゆる感情と色を吸い尽くして、空しさだけを残したのだ。それが起きた時、彼は叫び声を上げようとして口を開いたのだが、暗闇が声までも奪ってしまったことに気がついた。今や彼には恐怖心と空虚さしかなく、夜はいつも、死についての新たな理解で彼を満たすのだった。それでも、目覚めるともう恐怖心はなかった。女主人には何か目的があることを、彼は信じていたからだ。

実際、ある晩、ヴァーミルナ自身が虚空から姿を現したのだ。彼女はかがみ込んで、彼の耳にささやきかけた。

「気をつけなさい、愛する者よ!」。それと同時に彼女は虚空を消し去り、それからは毎晩延々と、自然界における最も恐ろしい猟奇的な光景をダリアスに見せた。人間たちが皮をはがれて他の人間たちに生きたまま食べられたり、いくつもの手足と口を持つような想像を絶する獣が現れたり、全人類が焼き尽くされたりして、彼の夜はいつも叫び声に満ちることになった。やがてそれらの光景が彼の魂をむしばみ始め、悪夢に登場する者たちが彼の作品の中に取り込まれるようになっていった。夜に見た光景がページの上に再生され、彼の作品に描かれている極度の残虐性と虚しい背徳の世界は、大衆に反感を抱かせると同時に魅了する物でもあった。あらゆる細かなことにまで反感を覚えては、彼らは大いに喜んだ。彼の衝撃的な作品をあからさまに楽しむ者たちもいたが、そういった一部の者たちからの人気は、彼を嫌悪する者たちの憎しみをかき立てるだけだった。そんなことが何年か続くうち、ダリアスの悪名は着実に高まった。そして、人生の29年目に入った時、何の前触れもなしに、夢と悪夢はぴたりと止んでしまったのだった。

夜ごとの苦悩から解放されて、ダリアスは重荷が取り除かれたように感じたが、混乱もしていた。「何か、女主人の気に障ることをしてしまったんだろうか?」と、彼は声に出して悩んだ。「なぜ彼女は僕を見捨てたのだろう?」。ヴァーミルナは決して彼の祈りに答えなかった。誰も答える者がいないまま、不安な夢は消え去り、ダリアスは長く深い眠りに落ちた。

ダリアス・シャノの作品に寄せられた興味は次第に薄れていった。彼の散文は新鮮みを失い、かつてのような衝撃や怒りを誘発することはなくなった。その悪名と恐ろしい夢の記憶が消えていくに従い、心の中で疑問が駆けめぐり、やがて、かつての女主人ヴァーミルナに対する憤りを彼は感じるようになった。憤りは憎しみとなり、憎しみはあざけりとなり、やがてあざけりが不信となった。ヴァーミルナは彼に全く話しかけていなかったということが、次第に明らかになった。彼の夢は、病んだ心が自らを正そうとして生み出された物に過ぎなかったのだ。彼は自分の潜在意識に欺かれ、怒りと恥辱に圧倒されたのだ。かつて神と会話を交わしたはずの男の心は、確実に

異教へと向かっていった。

敵意、疑念、冒とく的な心がやがてダリアスの中で結集し、その後のすべての作品を貫く創造的な哲学となった。彼は神々に挑み、彼らを崇拝するという堕落した状態にある幼稚な大衆にも挑んだ。誰に対しても全く容赦せず、屈折した風刺で彼らを嘲笑した。本当に存在するなら自分を打ち倒してみろと、彼は公然と神々に挑み、そのような天罰が下されないと見るや、さらに彼らを冷笑した。これらすべてのことに対して、人々は、以前の彼の作品に対して示したそれを圧倒的に上回る憤激を持って反応した。以前の彼の作品は人の感性のみを傷つける物だったが、今や人々の心に直接的に攻撃を加えていた。

彼の作品は規模も激しさも大きくなっていった。寺院、貴族、一般人など、すべてが彼の侮蔑の対象になった。39歳になった時、ついにダリアスは「最も高貴な愚か者」という作品を書き、皇帝神タイバー・セプティムが哀れな九大神教団に溶け込んだことをあざ笑った。やはりこの成り上がり者によって過去に侮辱されていた地元ダエニアの王は、これが好機だと感じた。帝国に対する冒とく的行為によりダリアス・シャノは、喝采を送るたくさんの群衆の前で、儀式用の剣によって処刑された。彼の最後の辛らつな言葉が、血まみれの口からゴボゴボと吐き出された。

最初の賭けから20年後、ヴァーミルナとシェオゴラスは、首を失ったダリアス・シャノの死体を挟んで出会った。夢の織り手はこの再会を待ち望んでいた。行動を起こさなかったデイドラの王子と対決する時を、何年も待っていたのだ。

「あなたにはだまされたわ、シェオゴラス！ 約束した私のほうの半分は実行したのに、あなたに与えられた10年間、一度もあの人間に接触しなかったでしょう。彼の偉大さは、あなた自身にも、あなたの才能にも、あなたの影響にも、まるで恩恵を受けていないわ！」

「ばかばかしい」とマッドゴッドがしわがれ声で言った。「私はずっと彼についていた！ お前の時間が終わって私の時間が始まった時、彼の耳にささやきかけたお前の声は、静寂に代わった。彼が最も大きな安らぎと意義を得ていたそのささやきへのつながりを断つことにより、あの生物が死に物狂いで求めていた注目を抑えさせたのだ。女主人を失ったこの男の個性は、恨みと憎しみによって成熟することになった。彼の敵意は完全な物となり、怒りによって増幅された憤怒に圧倒されて、彼は永遠の召使いとして我が世界で私を楽しませることになった」

シェオゴラスは振り向き、傍らの虚空に向かって語りかけた。

「実際、ダリアス・シャノは輝かしい人間だった。人々にも、王にも、そして彼が冷笑した神々にまで、嫌悪されていた。勝ったのは私だから、ヴァーミルナの信奉者を60人、我が軍に受け入れることにしよう。夢見る者たちはやがて、マッドマンとして目覚めるだろう。

こうしてシェオゴラスは、憤怒がなければ夢はなく、創造もないことをヴァーミルナに教えたのだった。ヴァーミルナは

決してこの教訓を忘れないだろう。

狂気の十六の協約　第九巻

FormId	skyrim.esm:01AFB3
Owning plugin	skyrim.esm
Local FormId	01AFB3
Editor ID	Book4RareSixteenAccordsofMadnessV9
Inventory image	(none)
Menu art	HighPolyBasicBook06
Value (gold)	25
Type	Book or tome
Weight	1
Can be taken	Yes
Teaches	(none)
Inventory description	(none)
Keywords	VendorItemBook
Locations	208
Leveled lists	10
Scripts	0

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.